

送別

韋

莊

千山の紅樹万山の雲

酒を把つて相看れば日又暝ず

一曲の驪歌兩行の涙

知らず何れの地か再び君に逢む

【作者】 韋莊（八三六〜九〇八年）五代十国の時代に前蜀の宰相をしていました。詩文のみならず、人物も優れ名宰相と呼ばれるような実務家でもあったようです。韋莊の祖先には、韋応物という著名な詩人もおりました。

【通釈】 「遠くに見える山々は紅葉に色づき、さらに遠くの方には雲がかかっています。酒を飲みながら、紅葉と雲を見てみると、陽射しが薰ってくるようです。一曲の別れ歌を口にすれば、自然と涙があふれてきました。亡くなった友人（もしくは遠方にいる友人）と、いつの日かまた逢いたいものだ」。